中国五県の防衛警備を担う第１３旅団広報紙

みつや

Vol.３２１
2026．９



令和８年度第２次旅団訓練検閲（第１７普通科連隊）

令和８年度第２次旅団訓練検閲

旅団は９月中旬、あいば野演習場（滋賀県）において、令和８年度第２次旅団訓練検閲を実施しました。
第１７普通科連隊、第１３後方支援隊及び第１３飛行隊が受閲し、各部隊は積み重ねた訓練成果を十分に発揮すべく検閲に臨み、与えられた任務を完遂しました。

＜第１７普通科連隊＞













令和８年度第２次旅団訓練検閲

＜第13後方支援隊＞









＜第１３飛行隊＞









陸曹候補生等選抜第２次試験

旅団は９月２９日から１０月１日までの間、海田市駐屯地において陸曹候補生等選抜第２次試験を実施しました。

受験生は術科試験、口述試験及び体力検定に真剣な表情で臨み、日頃の訓練や自己の練成の成果を発揮しました。



【術科試験（射撃予習指導法）】



【口述試験（面接）】



【体力検定（膝半屈腹筋）】



【体力検定（３０００m走）】

ホームページ技術担当者会同

旅団は８月２６日（水）から２８日（金）までの間、ホームページ技術担当者会同を実施しました。

ウェブサイト作成に必要な知識と技能を修得して、より見やすく、より使いやすいホームページづくりに取り組んでいます。





部隊長投稿コラム

百万一心



「アニメと視座と」

第１３高射特科隊長

田渕 健一郎 ２等陸佐

「教官、アニメ好きですか……？」

私が学校教官を務めていた折、ある学生からふと投げかけられた言葉です。精神的に不安定な面があった彼との面談。雑談を交えながら、慎重に対話を重ねていた最中のことでした。

自衛隊に入隊して以来、私はアニメという文化から少し距離を置いていました。しかし、心を閉ざしがちな彼が、精一杯にコミュニケーションを図ろうとしてくれているのだと感じ、私はおすすめを尋ねてみました。彼が挙げたのは、西尾維新氏の『物語シリーズ』という作品

当時は今のような配信サービスの存在を知らず、私はその日、早々に職務を切り上げ、官舎近くのレンタル店へと急ぎました。膨大なシリーズ数に圧倒されながらもＤＶＤを借り、ほぼ徹夜で視聴。久方ぶりに触れたアニメーションでしたが、予想だにせず「面白い」という感情を抱きました。翌日、彼と交わしたアニメ談議は大いに花を咲かせ、後日彼が無事に卒業したことに教官として深く安堵しましたが、同時に私の中には一つの問いが浮かんでいました。

「なぜ、三十代半ばになった自分が、これほどまでにこの作品を面白いと感じたのか」

アニメは十代から二十代前半の若い方が好むものだという先入観があったため、自分が感じた「面白さ」の正体をうまく言語化できず、もどかしさを抱えていました。そこで私はノートを取り出し、心に残った情景や、台詞のひとつひとつを書き出してみたのです。

書きなぐった物語の断片的な内容を俯瞰して初めて、ある共通の構造が見えてきました。登場人物による饒舌な語りと、「怪異」という不可解な存在に苛まれる人々。この物語の本質は、「個人が自己をいかに定義し、語るか」という点に集約されてい

（次のページへ続く）

部隊長投稿コラム

百万一心



「アニメと視座と」

第１３高射特科隊長

田渕 健一郎 ２等陸佐

ました。怪異とは、自己認識の歪み、欠落、過去の罪などが可視化された象徴であり、他者との対話を通じてそれを受容することで消えていく。それは哲学における実存主義の利点と欠点を見事に描き、対話による「止揚（弁証法）」を経て登場人物たちの問題に決着をつける（解決ではない）という、極めて緻密な構成の物語だったのです。

さらに、美麗な映像や微細な表情、声優さんの軽妙な語り口など、アニメならではの表現力が、文学作品では伝えきれない感情の機微を補完していました。私はこの作品の「構成の巧緻さ」と「表現の高度さ」を「面白い」と感じていたのだと気付かされました。

何よりの収穫は、この経験を経て、表面的な事象だけでなく、物事の「本質」や「構造」を深く洞察する習慣がついたことです。知識とは単なる「情報の集積」であり、知恵とは「その知識を運用して価値を創造する術」であると私は考えます。もやもやを解消するために書き出したノート、いま分かっている事を書き出し、共通項を括り、抽象化して既存の知見と照らし合わせる。この「因数分解思考」を事象に適用したプロセス、すなわち「思考の型」は特定の分野に捕らわれず他の分野に適用できるという気付きこそが、私にとっての知恵となり、現在の職務や私生活における視座として役立っています。

学生から教官へ、アニメの話を切り出す。そこには、どれほどの勇気が必要だったでしょうか。彼の一言が、結果として私に新たな視座を与えてくれました。

ドラマやアニメのみならず電子書籍など、あらゆるコンテンツに容易に触れられる現代だからこそ皆さん、あえて「未知なる領域」や「馴染みのない価値観」に身を投じてみては如何でしょうか。その越境の先にこそ、これからの人生を豊かにする新たな発見があるかもしれません。

最先任上級曹長等投稿コラム

三矢の訓え



「やってみなはれ」

第４６普通科連隊
第２中隊先任上級曹長
越智 勝太郎 准陸尉

令和７年３月１７日付をもって第４６普通科連隊第２中隊先任上級曹長の職を拝命しました越智准尉です。拝命から約１年約６か月が経過しましたが、先任上級曹長として中隊（隊員）の為に「何ができるか」、「何をすべきか」を日々自問自答しているところであります。この度、みつやへの投稿機会を頂きましたので、私の座右の銘である「何とかなるさと楽観し、何とかなるように努力する」についてお話させていただきます。

先ず初めに、皆さんは「やってみなはれ」という言葉を耳にしたことがありますでしょうか？この言葉は、サントリーの創業者である鳥居信治郎氏の言葉で、新しい分野に挑戦しようとして周囲から反対を受けるたびに、「やってみなはれ。やらなわからしまへんで」と口にして周囲を鼓舞し、失敗を恐れず挑戦し続け、この精神がサントリーグループの企業精神として受け継がれ、今もなお新たな事に挑戦を続けています。この鳥居氏の言葉を踏まえ、改めて私の座右の銘についてお話させていただきます。この言葉は私が旅団集合教育「部隊格闘指導官」に学生として参加した際に主任教官から伝えられた言葉であり、物事を行う上で私の気持ちを前向きにさせてくれました。我々は階級や補職に応じ様々な任務や職務を遂行しなければなりませんが、昨今の部隊状況を見ると、人員の減少も顕著であり一人一人に求められる役割も多様化し、今までは上位者が行っていた業務や全くやった事のない業務などを任される事も増えてきたのではないでしょうか？私もその様な経験が多々あり、「私にはできない！」、「何で私に振るんだ！」と後ろ向きに捉える事もしばしばありましたが、その度に「何とかなるさ」と前向きな心を保ち、「何とかなるように」と、今の私にできる最大限の行動が取れるよう準備（努力）し今日まで与えられた職務を行ってきました。皆様の中にも同じような経験をした方がおられると思いますが、前述したとおり人員減少が進む今、現階級や能力以上の事を求められる機会も増えてくると思います。そういった時にこそ前向きに捉え挑戦してみてはいかがでしょうか。「後ろ向き」に捉えてやるより、「前向き」に捉えてやる方が得られる成果（教訓）も大であり、自分自身をより成長させてくれます。「やってみなはれ」

今後も先任上級曹長として「前向きに」職務を全うしていく所存であります。

最後に、未来の国防を担う若獅子達よ！
困難な状況を恐れず、先ずは「やってみなはれ！」

注目の隊員を紹介

SPOTLIGHT



第１３音楽隊

安田 和真 ３等陸曹

安田３曹は令和３年４月に一般曹候補生として入隊し、前期教育を第１１０教育大隊（松山）、後期教育を中央音楽隊（朝霞）で修了後、第１３音楽隊に配属、現在は音楽手としてファゴットの演奏手として活躍しています。

＜プロフィール紹介＞

Ｑ１　自衛隊に入隊したきっかけは何ですか？

母校で実施された自衛隊音楽隊の説明会で音楽隊員の方から話を聞いたのがきっかけです。

Ｑ２　現在の職種（音楽科）を希望した理由はなんですか？

学生時代に培った楽器演奏の技能を活かせる職種だと感じたからです。

Ｑ３　学生時代の部活動は何ですか？

中学・高校で吹奏楽部に所属していました。

Ｑ４　あなたの自慢（長所）を教えてください。

私が担当している楽器（ファゴット）は一人しかいません。部隊で替えのきかない役を任せてもらえることが自慢でもあり、誇りでもあります。

Ｑ５　休日は何をして過ごしていますか？

妻と一緒に買い物に行ったり、家で動画鑑賞などをしています。

Ｑ６　自衛隊での一番の思い出は何ですか？

同期と苦楽を共にした新隊員教育が一番の思い出です。

Ｑ７　今後の目標は何ですか？

音楽陸曹としての技能を向上させると共に、最近溜まってきた動画の視聴を完了させるのが目標です！！

Ｑ８　自衛官を目指す人にメッセージをお願いします。

近年自衛隊は給料アップや、営内環境の整備などに力を入れてくれているように感じます。想像しているよりもいい環境で生活できるので安心してくださいね！！